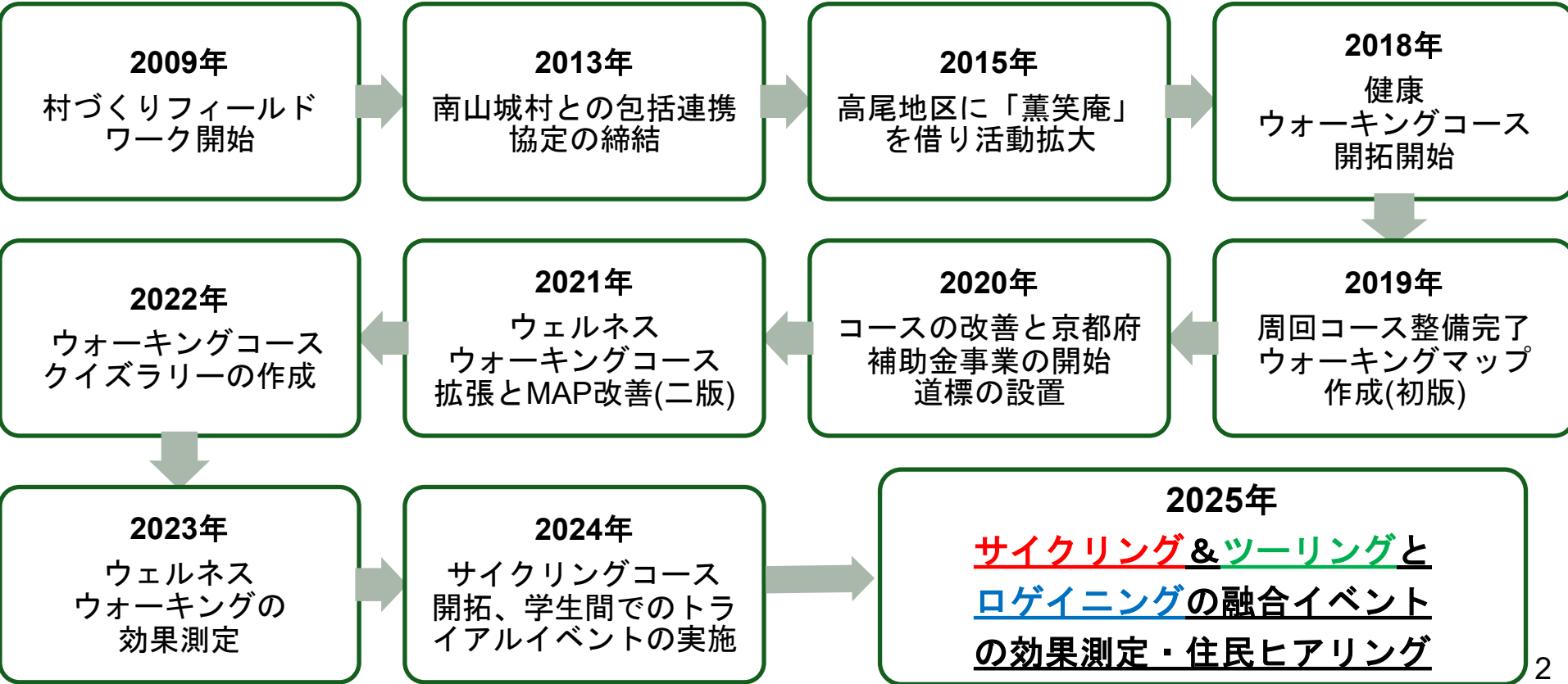


【2025年度 南山城村活動報告】

「サイクリング&ツーリング×ロゲイニング」 の融合イベントによる地域の魅力発信の 拡大と地域活性化の可能性について

経営経済学部 経営学科
スポーツビジネスコース
横山誠ゼミナール

南山城村でのPBL



昨年度の課題と今年度の活動

【昨年度の課題】

チェックポイント
の魅力付けが
不十分

コース設定や
難易度の
ばらつき

リピーター創出
の仕組みづくり



【今年度の取り組み】

ツーリングを
ターゲット

マップ改善と
一般参加者の募集

ビジネス化に
向けた効果検証
住民へのヒアリング

事業実施の成果

【アウター】

イベントの
効果検証

【インナー】

住民への
ヒアリング

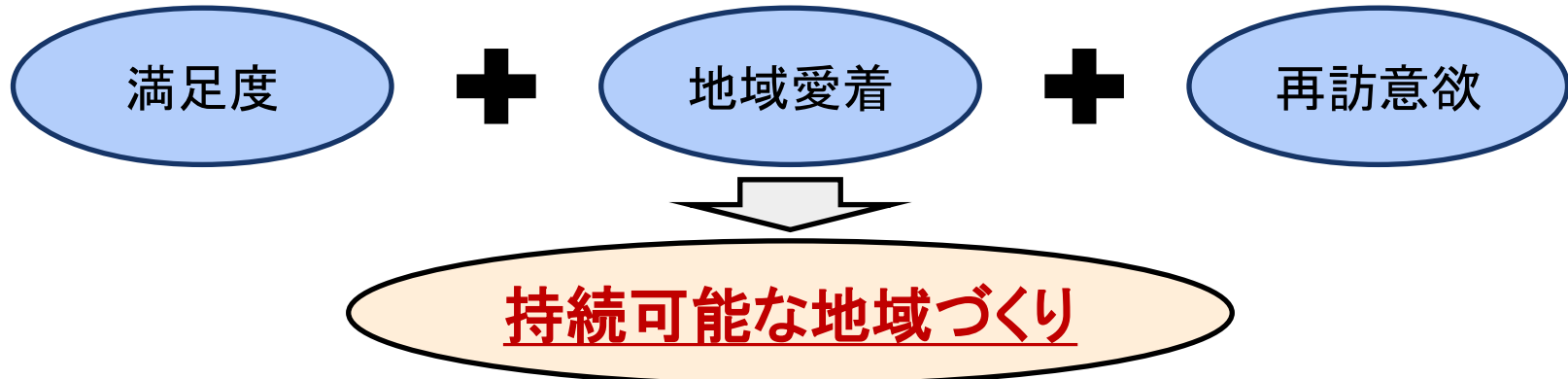
イベントの効果（アウトター）

これまでの活動を通して、長期的なPBL活動はアウトドアスポーツにおける多面的な効果の創出につながる可能性があることが明らかとなった

多面的な効果

- ・ 心身の回復
- ・ 満足度
- ・ 交流人口・関係人口の創出
- ・ 再訪意欲
- ・ 地域活性化

アウトドアスポーツを活用したイベントでは、魅力発信のために付随した価値



今後の可能性について（アウター）

単発的なイベント

食文化やロゲイニングといった付随的価値の提供

定期的なイベント

ビジネス化へと発展させることができ、更なる交流・関係人口の増加、リピーターやファンづくり、地域活性化に貢献していくことができる可能性がある。

PBL活動における住民評価（インナー）の重要性

「これまで」は、観光や地域活性化等の外部(アウター)に向けたプログラムやイベントの開発が中心であった。

しかし

住民の認知や理解については、これまで把握できていなかった。

継続の
秘訣

住民側(インナー)からの認知度や理解度を把握することが必要である。

住民へのヒアリング概要

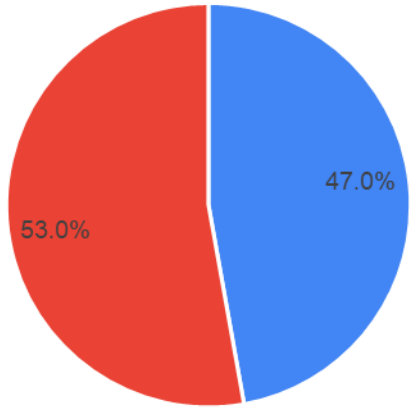
回答数：93枚

性別：男性47.0% (n=39) 女性53.0% (n=45)

年代：以下表1参照

表1 年代×男女 クロス集計表

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	0.0% (n=0)	7.7% (n=3)	7.7% (n=3)	17.9% (n=7)	46.2% (n=18)	20.5% (n=8)	0.0% (n=0)	100% (n=39)
女性	6.7% (n=3)	11.1% (n=5)	6.7% (n=3)	20.0% (n=9)	31.1% (n=14)	20.0% (n=9)	4.4% (n=2)	100% (n=45)
全体	3.6% (n=3)	9.5% (n=8)	7.1% (n=6)	19.0% (n=16)	38.1% (n=32)	20.2% (n=17)	2.4% (n=2)	100% (n=84)



■男性 ■女性

図1 回答者の性別割合

PBL活動に対する認知と要望

住民へのヒアリングの結果、大学のPBL活動に対する認知度は約2割で、住民が大学の活動概要を認知していない状況であった。

主な情報源

学生や大学関係者
体験プラザ
住民同士の口コミ

大学に対する住民の声

地域の活性化を
期待する層
現状維持・生活維持の
配慮を重視する層



住民との関係を築くためには、活動内容や目的の共有が必要である。

住民の声と要望について

住民へのヒアリングの結果、**生活環境**の充実を求める意見が見られ、**外部環境**の充実に関する要望が見られた。

生活目線

公園・子供の遊び場
出会い交流の場
交通・アクセス
生活インフラ

地域活性化

自然環境の保全
若者定着
身近な生活施設
観光・賑わい施策



住民の生活のバランスを保つためには、住民の意見や要望を理解する必要がある。

今後の可能性について（アウター）

【PBL活動の住民の理解について】

住民の理解を得ることで
信頼関係が構築

持続可能なまちづくり

地域活性化

活動内容や明確な目的を住民と共有することで、**住民の理解が深まり、
信頼関係が構築される**ことで、PBLへの参画や協働へ発展する可能性がある。

さらなる地域活性化に向けて

アウター

単発的なイベント

食文化やロゲイニングといった付随的価値の提供

定期的なイベント

ビジネス化へと発展させることができ、更なる交流・関係人口の増加、リピーターやファンづくり、地域活性化に貢献していくことができる可能性がある。

インナー

住民の理解を得ることで信頼関係が構築

持続可能なまちづくり

地域活性化

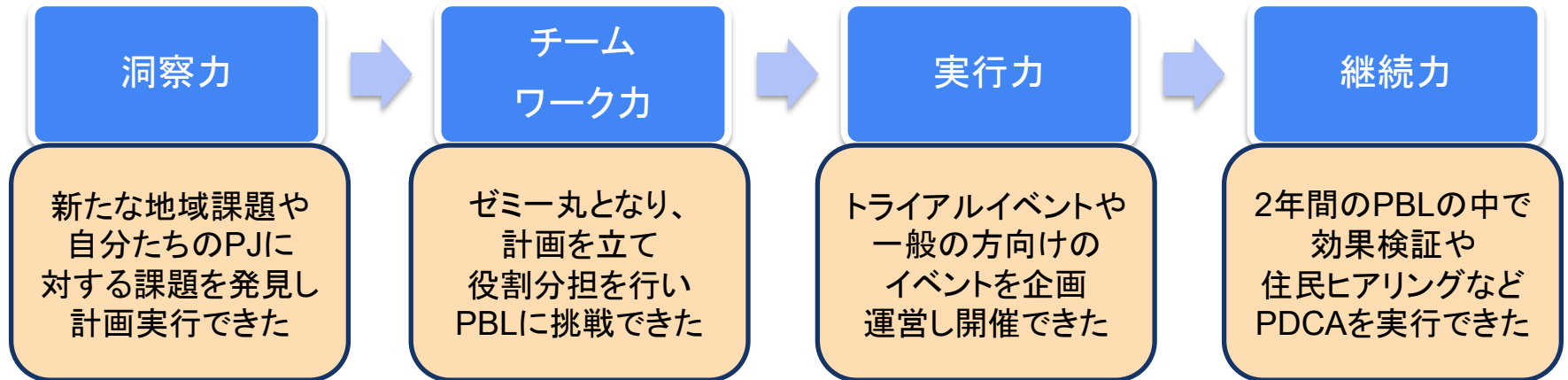
活動内容や明確な目的を住民と共有することで、**住民の理解が深まり、信頼関係が構築される**ことで、PBLへの参画や協働へ発展する可能性がある。

今後の持続可能なまちづくりには、両輪の軸が必要である。

これまでのPBLの成果

- ・ 2018年度から南山城村での地域活性化プロジェクトが始まった。
- ・ これまで様々な報告会や関係者との交流を通して、多くの人に南山城村の魅力を発信できた。
- ・ 私たちは2ヶ年に及ぶPBLを通して、大きく成長することができた。

【自分たちの成長プロセス】



成果報告Ⅰ（村長報告会）

日 時：2026年2月17日（火）午前

場 所：南山城村役場

出席者：南山城村 村長 平沼様、産業観光課の皆様
南山城村地域おこし協力隊

昨年度の取り組みや成果、課題を踏まえ「サイクリング&ツーリング×ロゲイニング」イベントの効果検証、住民へのヒアリング結果を報告し、今後の観光促進や地域活性化の可能性について報告を行った。

本学ホームページにて当日の様子が掲載された。

2026年3月11日



2026.03.17

成果報告Ⅱ（京都府報告会）

日時：2026年3月1日（日）午後

場所：京都府立医科大学附属図書館

事業名：大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト
共同事業 ※京都府補助金事業としては8年連続採択

京都府副知事、京都府総合政策環境部部長・課長に
本学の取り組みを報告し、他大学の学生や教職員と
の意見交換を行った。

本学ホームページにて当日の様子が掲載された。

2026年3月17日



京都府副知事 鈴木一幸様へご報告



京都府総合政策環境部の部長へご報告



京都府総合政策環境部の部長へご報告

